

## ILO (国際労働機関)

私は、この機会にILOの協同組合部を代表して皆様方にご挨拶を申し上げます。ご承知かと思いますが、ILOは国際連合の専門機関です。ILOは1919年に設立されましたが、1920年、初代事務局長アルベール・トーマにより、この機関にユニークな協同組合サービスが設立されました。トーマ事務局長は献身的な協同組合人で、1920年代にICA理事も勤めていました。

ILOのディーセント・ワーク、これは自由、平等、安全、人間的尊厳を保ちつつ、男女が人間的で生産的な仕事をえられる機会を促進するというものですが、これを促進する視点で、ILO協同組合部は、雇用創出において協同組合がもつ潜在能力、とりわけ社会において傷つきやすいグループに対し、安全や保護を与える能力を非常に重要視しています。

私たちは、雇用創出、社会統合、資源動員を通じた、世界的な貧困克服において協同組合が重要な役割を演じること、その能力を持っていることを信じています。協同組合は底辺層を引き上げることにより、貧しい人々を貧困状態から抜け出させ、女性や男性に平等な機会を創る可能性を与えます。この関連において、私は日本の労働者協同組合が失業者へのディーセントな仕事づくりに成功し、高齢者や子ども達への社会的サービスに尽くしていることにお祝いを申し上げます。

また、私は、ILOとICAが今年2月10日、既存のパートナーシップを強化し、ディー

セント・ワークの促進、貧困の克服を目的とする協定覚書に署名したことをお知らせしたいと思います。この覚書の付属文書、「共通の協同組合課題」は、明瞭にILOとICAが協同組合の発展を通じて貧困を克服し、「国連ミレニアム開発目標」を達成するためにどのように共に取り組むかについて述べています。ILOとICAはまた、協同組合開発のパートナーとして共に働き、世界中で各国協同組合組織が直面する運動への支援を約束しました。

日本労働者協同組合連合会とILOの協同組合部門が、開発途上国で労働者協同組合強化のために協働できるだろうことは疑いがない、と私は信じています。そのことにより、まともな人間的な仕事を創りだし、貧困克服の努力を共に促進させることができるでしょう。私は、皆さん方が今総会で成功裡に討議されるようお祈り申し上げます。

ILO協同組合部長  
ユルゲン・シュベットマン